

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホームさくらんぼ須屋 (A棟)		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺には住宅が増えつつあるがホームの前は開所時と変わらず、とうもろこし畑が広がっており入所者の方には鳥が来たり小中学生の登下校など毎日のどかな風景を眺めながら、ゆっくり過ごして頂いている。一人一人が望む生活が出来る様に、皆様や家族の思いを汲み取りながら馴染みの職員が寄り添うケアを常に心がけている。又、併設の認知デイや小規模多機能ともボランティア来所時や歩行訓練などで利用者・職員間の交流があり、さくらんぼ全体で見守り支えている。今年度は小中学生の来訪も多く運営推進会議には民生委員の方が交代で参加して下さるなど地域との交流も徐々に増えてきている。職員も介護福祉士・社会福祉士・ケアマネなど資格取得しており法人や事業所で行われる勉強会もありスキルアップ目指せる職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当時からの理念『あなたと共に』は、見直しについて検討の結果ホームの象徴として継続していくことが決定しており、不動のものとなっている。新年早々、新成人になるという若き男性職員や経験豊富な職員まで、幅広い年齢層はホーム内に活気と落ち着きの両方を提供し、「うわっぱり」や「正月頭」など入居者に馴染みの言葉も飛び出し和やかな日々となっている。入居者の高齢化と共に本年度は入退院の多い年であったのだが、かかりつけ医や往診に同行する訪問看護師の存在は心強く、些細なことでも相談に応じてもらいながらホーム生活の延長を支えている。また、棟続きにある3事業所合同の運営推進会議も情報発信や地域交流の手段として活用され、行政担当者や地域代表者から意見をもらいながら、時にはホーム内を直接見てもらい、管理者以外の3事業所いずれかの職員が同席できるような体制を工夫している。離職の少ない職場環境であり、入居者にとって馴染みの関係が安定した生活を支援していくものと期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札に理念を記したものを携帯しており施設内3か所に提示してある。年度末には皆で理念の内容を確認している。	ホーム理念については、年度末に見直しを含め内容を検討しており、今年度も継続していくことを決定し、理念に沿ったケアを再確認している。職員は名札への携帯をはじめ、それぞれが振り返る機会を持っており、ホーム内への掲示は家族をはじめ来訪者への啓発にも繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃・行事に参加したり小学生の慰問や学習発表会の招待を受け毎年中学生の職場体験などで交流を深めている。今年度は近隣の小学校より当施設の出前講座の依頼があった。	地域の中のホームとして開設時から出来ることを模索しながら進めている。掃除や行事などには積極的に参加しており、中学生の職場体験の受け入れや、近隣小学校からの出前講座の依頼を受け、法人3事業所の管理者が講師を務めている。今年度は小学生が花のプレゼントで訪問しており、交流の様子や頂いた花がテーブルに飾られ、入居者が笑顔で花を眺める様子が写真に残されている。	近隣神社やコンビニの利用も入居者にとっては、地域との交流や身近な散歩の場所ともなっている。継続した取組に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。小学生の訪問時や中・高生の実習時にも認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人職員・地域住民・市職員の参加あり入居者状況や活動状況を報告し、意見交換の場となっている。参加者からの質問やこちらからのお願いなどもしている。家族にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に掲載している。	2か月ごとの定期開催が実現しており、ホームの現状報告をはじめ、参加者がそれぞれの立場での発言し有意義な会議である事は記録や聞き取りからも確認された。ホーム内を知ってもらうことは重要であり、理念をはじめ、新メンバー参加時には入居者の様子や居室などを案内し、感想を受けている。今年度は区長から民生委員の参加について提案が出され、輪番で参加されるようになり、新たな目線での意見が期待されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回行われる運営推進会議に参加していただき市の介護保険情報を話してもらったり、連絡などはメールを活用している。	運営推進会議への参加時には、介護保険の情報など行政の対場で発言を受ける他、管理者は質問や相談事項があれば、直接役所を訪れ指導やアドバイスを受けるようにしている。また、介護相談員の訪問も入居者の思いや意見など生の声をサービスに活かせる機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠しておらず、日中はセンサーを設置し出し入れを確認している。年1回勉強会を行い新人にも身体拘束をしないケアを理解してもらっている。また入居時には家族にも説明している。	日中は玄関の施錠もなく来訪者も自由に入居できる環境であるが、ホーム目の前は道路でありセンサーにより入居者の安全確認が行われている。安全管理については、家族の理解や協力も必要であり、リスクについても説明を行っている。また、両ユニットの職員が連携を図り、ユニットを自由に行き来できる環境で圧迫感のない生活支援に努めている。家族の要望により体感センサー設置した居室もあるが、状況については家族へ報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で言い合える環境づくりに努め、虐待防止に心掛けている。年1回は勉強会を行い、認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度は一人の利用があり勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。年1回茶話会を実施している。	入居者の要望などは、日ごろの関りの中で聞き取っており、食べ物や買い物を中心であるが、「髪染めに行きたい」などハッキリと伝えられる方もおられる。出された要望によっては、家族の協力も得ながら速やかに対応している。家族の意見や要望については、来訪時や電話の際確認する他、クリスマス会の席で、入居者や職員の現状を伝えた後、茶話会の中で聞き取っている。	入居者の担当職員が配置されていることで早めの連絡や相談のしやすさなど家族からも感想があがっている。今後も家族とのコミュニケーションを図りながら、意見や提案、相談など気軽に言い合える関係を構築していかなることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月、年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。また職員が気軽に話が出来ようような環境作りに努めている。	毎月のユニット会議や年2回の合同ホーム会議、申し送り時などでも意見や要望を確認している。また、法人関係者も運営推進会議をはじめ、ホームを訪れた際は、入居者や職員と話す機会を持っている。管理者は職員の希望休への対応や特技を活かせる職場環境など自身も夜勤業務に入りながらコミュニケーションを大切にホーム運営に取り組んでいる。離職の少ない職場環境は、より入居者との馴染みの関係を深めている。	職員から「16時半からは特に入居者と触れ合う時間を持つ」との提案により、歩行訓練に取り組むユニットや、広告を使った箱折りなど手作業に励むユニットなど、それぞれが工夫し入居者と時間を持っている。今後も職員の意見や提案を反映した運営に努めていかなることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業所内での勉強会を行い職員に講師をしてもらったり、レベルアップのためケアマネ、介護福祉士の資格取得の支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・菊池グループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換、新しいことを習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりを心掛けている。不安な様子が感じられる時には居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又思いを表出できる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり、グループレクの参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者が本人の様子を手紙で伝え2か月1回発行している「さくらんぼ新聞」にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。また、大きなイベントには参加を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、小規模やデイを利用していた方は事業所内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。元職場の同僚や親せきの方入所前にお世話していた方の面会その方との外出もある。	棟続きにある小規模多機能事業所やデイサービスを利用されていた方には、努めて行き来をすることでこれまでの関係が途切れないようにしている。家族や親類・友人などの訪問時は、希望に応じリビングや居室でゆっくり過ごしてもらい次回の訪問も依頼している。また、趣味や特技を継続できる環境を整えており、将棋の好きな方には対戦相手に週1回ボランティアの訪問もあり、その時間を楽しませられている。書道を得意とされる方々には作品を掲示するコーナーを設けており、本人の自信や来訪所の楽しみとなっている。	ホームへの入居を紹介された地域の方が、定期的に草取りなどの美化作業に訪問されるなど、変わらぬ関係が継続されている。今後も馴染みの人や場所をはじめ、趣味や特技など一人ひとりに応じた支援に取り組んでいきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で協力・共同生活できる様職員は見守り、時には間に入っている。孤立しそうな利用者に対しては環境を少し変え個別で対応しストレスにならないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、今の気持ちを聞いたり望みや不安など察知し家族面会時にも意見を聞いている。申し送りやカンファレンスを行い一貫した援助が出来る様に職員同士の話し合う機会を設けている。	ホームは入居者と一緒にゆっくり過ごす場面を大切にしている。一人ひとりの今の望みや不安に思っていることなどを日常の関りの中で把握すると共に、家族の意見も受けながらプランに繋げている。また、意思表示が困難な方への聞き取りの工夫やケアの中で気づいた事などは申し送り時などで共有している。対応によって入居者の反応が良かった場合なども、その場で職員間で報告し合うなどチームワークを感じる場面が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーから入所時前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報収集に努めている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。又、本人の現状での心身状態に応じて無理のないように、今出来ることや興味のあることの把握に努めて生活の中に取り入れれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見を反映しプランを作成している。定期的な見直しをして家族への説明は来所持や帰省時など個々に応じて対応しており、現在の状況を説明し計画通り援助ができていくかも確認しながら行っている。	本人・家族の思いや意向を反映したプランとなるよう、可能な限り家族に担当者会議への参加を依頼している。プランは家族の面会や、遠方の家族においては帰省時に合わせるなど直接現状を説明しながら行っているが、困難な場合は郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は申し送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。又、ケアの実践結果、気づいたことなど介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに日用品を買いに行ったり、近くの理髪店まで同行したり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝したりどんどやに参加している。その他地域の行事にも参加し楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前からのかかりつけを支援している。受診は基本的に家族が同行する。家族の都合で受診出来ない方は往診を依頼している。又、緊急な場合等も家族で連絡を取りながらホームで対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援することとしているが、受診は家族対応を基本としており、協力医による往診が増えている現状である。緊急の際は家族と連絡を取り、ホームで対応している。職員は日頃からバイタルチェックや表情、動きなど観察をしながら気になることがあれば、主治医へ相談し、現状を家族へも伝え共有することとしている。	認知症のある高齢者を支えるホームであり、今後も医療機関との連携や現状を家族と共有しながら、入居者の健康を支えていただきたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。感染性の疾患や救急時の処置の仕方などの勉強会を看護師が担当している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医・PT・相談員との会議に参加したり連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りの実例はないが契約の段階から重症化や終末期に向けた指針を策定し家族に説明している。看取りの勉強会により知識を深めている。	契約時に重度化した場合の対応に係る指針や、看取り体制に関する資料をもとにホームの取組などを説明している。家族へは身体状況や入院など変化が生じた場合は、必要に応じ話し合い、意向を確認し方向性を決定している。ホームではこれまで看取り支援に取り組んでいる同事業者による講義を受けている他、職員の知識を深めるために年度末にも勉強会を開催予定である。	さくらんぼの門をたたいてくださった入居者に、「今できる支援」に今後も努めていかれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼り出してある。AEDを設置しておりAEDの使い方や胸骨圧迫法など消防署の方に来て頂き勉強会を行っている。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	消防署立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。地域の方にも方々にも回覧し参加して貰っている。飲み物や食べ物も備蓄している。	消防署の立ち合いのもと、棟続きの系列事業所(小規模多機能・デイサービス)と合同で昼夜を想定した消火避難訓練を実施している。区長のアドバイスにより地域への参加を呼びかけており、開設当初と比較し近隣者の参加も増えつつある。年明けには地震を想定した訓練を予定している。火災は火を出さないことを一番に、コンセントの埃なども掃除を徹底する日曜日に確認している。必要な備蓄は殆どを法人で、ホームでもインスタント食品など食料を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声かけ等心掛けています。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面では利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう対応に努めています。守秘義務については入職時や研修を通して学んでいます。	入居者一人ひとりを尊重した支援については、研修会や日々の業務の中でも周知が図られている。守秘義務についても同様入職時や研修の中でも周知徹底されている。呼称は苗字に「さん付け」を基本とし、同性介助についても希望があれば対応している。広報誌をはじめ写真掲載など個人情報の使用については、本人・家族の了承を得ている。身だしなみも尊厳への支援であり、入浴後の保湿化粧水や整髪、家族の協力で定期的なカット・毛染めに出られる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択をして頂けるよう声掛けを行い、無理強いすることなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話を聞きながらゆっくり過ごしていただいている。又、天気の良い日は敷地内の散歩をしたり交流希望時は小規模やデイを活用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望し好みに合った服装や季節・体質にあった服装に心掛けている。起床時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを準備したり、簡単な盛り付けなどを入居者と一緒に行っている。本人の状況に合わせてきざみ食・盛り付けやお碗の工夫をしている。季節感や行事に合わせた献立に利用者の意見、希望が反映するよう努めている。	日常の食事は厨房で入居者の希望や旬を活かした献立によって調理されている。行事食やイベントではワンプレートでの盛り付けなど楽しい食事となるよう工夫している。食事中の音楽もユニットごとに入居者の好みや季節感を取り入れた物を検討している。食形態も入居者の嚥下力に応じて提供しており、身体状況によっては居室で支援している。週2回ホームが検食の担当となっており、検食簿には入居者のコメントを入れるなど、次回に活かせる内容となっている。	入居者の横に座りゆっくり介助することで、食事の雰囲気も異なってくると思われる。全職員が短時間の介助であっても必ず着席し、支援することを心掛けていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、水分の少ない方へはお茶だけでなく家族から本人の好まれる飲み物を持参してもらい飲水量を記録し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声掛け、誘導を行っている。出来る範囲まで自力で歯磨きをしていただき、最後には職員は口腔内の確認、仕上げを行っている。夜間は義歯を預かり、ポリドントに浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。ズボンの上げ下げもその方に応じた対応で自立支援を行っている。	排泄パターンや適切な排泄用品を検討し、個々に応じた支援に努めている。日中は布パンツやリハビリパンツにパットやシートを併用し、夜間はポータブルトイレや尿漏れの心配からテープ式オムツの方もおられる。昼間使用しないポータブルトイレは、ベッドの奥にしまうなどプライバシーに配慮している。また、日曜日はハイター消毒や本体ごと掃除を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、水分補給や腹部マッサージ、運動を促し、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時冷たい飲み物、乳製品(牛乳、ヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後から浴室では個々に合わせた会話をしたり、季節ごとにゆずやしょうぶを入れて楽しんでいただいている。着がえの準備を一緒にしたり拒否があるときは無理強せず更衣のみや翌日へ配慮している。	入浴は個浴で1対1になる時間でもあり、同性介助の希望に応じながらその方のペースにあった入浴支援に努めている。午後からの支援が中心であり、少なくとも週2回は入ってもらえるように声をかけ、拒否があれば着替えや翌日に変更するなど、無理強いしないようにしている。菖蒲や柚子湯も毎年季節の行事として取り組んでおり、全員が楽しめるよう3日ほど実施している。浴室は清潔に管理し、浴用の石鹸も馴染みの物(青箱石鹸)を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方は10時頃のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクレーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは安心していただけるように、声かけ、傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。個人の薬袋の中に説明書も入れており薬セットから服用まで数回チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にレクレーションを兼ねて皆で歌を歌っている。字を書くことが得意な方には習字の時間を設けたり、塗り絵が好きの方には季節感ある塗り絵などをしていただいている。又、出来る範囲で食事の用意や洗濯干しをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて敷地内散歩や季節ごとの外出(桜、コスモス)テラスでの外気浴を実施している。地域で行っているどんどやにも参加し地域の方との関係を保つよう努力している。	初詣やお汁粉の振る舞いを受けるとんどやや、散歩を兼ねてコンビニの利用など、地域資源を活用しながら個々に応じた外出の機会を支援している。また、ホーム菜園の管理やベランダを活用しお茶の時間や外気に触れる時間を持っている。家族の協力により美容室の利用や受診、その後にランチを楽しまれる方や、ふるさと(宮崎)への墓参を実現された方もおられる。	ベランダでの日向ぼっこは広報誌の中でも紹介され、季節によってホーム周辺や菜園の様子も異なり、入居者にとっても何よりの時間と思われる。今後も身近な外出として取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。ちょっとした日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納品帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は電話を使用する事を支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と代わっている。遠方に住む家族から敬老の日、誕生日などお祝いの品が届くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔にし、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるように気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵、習字などを展示している。	玄関から左右に分かれたユニットのリビングからはホームの菜園やサクラノボの樹木と、隣接に広がるとうもろこし畑は開設時から変わらぬ光景である。季節柄クリスマスの飾りが施され、食事の音楽などもそれぞれのユニットが工夫をしながら提供している。また、夕方不穏になられやすい時間帯や日曜のゆっくりした時には、今昔熊本物語のDVDを流し、穏やかな時間を持ってもらえるようにしている。	外出時や日常の光景の写真や塗り絵、習字などの作品の掲示は季節を感じ取れる他、本人の励みや家族にとっても楽しみと思われる。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方、個々が毎日の生活の中で好む場所を理解した上、ホールでは利用者同士のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの側にソファを置き、ゆっくり出来るスペースをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具を使ったりベッドの配置や高さを話し合っている。また御家族の写真や手作りカレンダーなど飾っている。面会時は居室でゆっくりとすごしてもらっている。	居室は本人の部屋として自由に使って欲しいこと、物品が多すぎると転倒の心配もある事も伝えている。入居後の生活状況を見て必要な品や、使用頻度が少ないもの(クリア収納ケースなど)を家族へ伝えながら、その時々で居室環境を整えている。家族の写真や小物など馴染みの品をはじめ、テレビや将棋台、携帯電話など個々の趣味や楽しみごとが継続できるものが持ち込まれている。居室は日々の掃除に加え、日曜日は細かな箇所も確認しながら徹底して行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し散歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。トイレには「便所」と表示し、わかりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600048		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホームさくらんぼ須屋 (B棟)		
所在地	熊本県合志市須屋2863-4		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺には住宅が増えつつあるがホームの前は開所時と変わらず、とうもろこし畑が広がっており入所者の方には鳥が来たり小中学生の登下校など毎日のどかな風景を眺めながら、ゆっくり過ごして頂いている。一人一人が望む生活が出来る様に、皆様や家族の思いを汲み取りながら馴染みの職員が寄り添うケアを常に心がけている。又、併設の認知デイや小規模多機能ともボランティア来所時や歩行訓練などで利用者・職員間の交流があり、さくらんぼ全体で見守り支えている。今年度は小中学生の来訪も多く運営推進会議には民生委員の方が交代で参加して下さるなど地域との交流も徐々に増えてきている。職員も介護福祉士・社会福祉士・ケアマネなど資格取得しており法人や事業所で行われる勉強会もありスキルアップ目指せる職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は名札に理念を記したものを携帯しており施設内3か所に提示してある。年度末には皆で理念の内容を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃・行事に参加したり小学生の慰問や学習発表会の招待を受け毎年中学生の職場体験などで交流を深めている。今年は近隣の小学校より当施設の出前講座の依頼があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学時、運営推進会議でも認知症に関する話と事例を通しての話をしている。小学生の訪問時や中・高生の実習時にも認知症について理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人職員・地域住民・市職員の参加あり入居者状況や活動状況を報告し、意見交換の場となっている。参加者からの質問やこちらからのお願いなどもしている。家族にも会議の内容を理解していただける様に議事録を玄関に掲載している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回行われる運営推進会議に参加していただき市の介護保険情報を話してもらったり、連絡などはメールを活用している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠しておらず、日中はセンサーを設置し出し入れを確認している。年1回勉強会を行い新人にも身体拘束をしないケアを理解してもらっている。また入居時には家族にも説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で言い合える環境づくりに努め、虐待防止に心掛けている。年1回は勉強会を行い、認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人の利用があり勉強会でも知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉を用い説明をしている。何か疑問点、不明なことはないか面会や電話連絡時は確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の際は現状報告し、意見や要望を聞くようにしている。担当を設けており意見、不満、要望はスタッフ同士報告し、改善につなげている。年1回茶話会を実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議は毎月、年2回は全体の会議を行い職員の意見や要望を聞くようにしている。また職員が気軽に話が出来よう環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員と話す時間を設け、勤務に無理はないか不満などについて確認している。経験のある人には新人のフォローをお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業所内での勉強会を行い職員に講師をしてもらったり、レベルアップのためケアマネ、介護福祉士の資格取得の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿・菊池グループホーム勉強会へ職員は参加し、そこで情報交換、新しいことを習得している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、又言動に注意を払い遠慮なく思いを伝えられる環境づくりを心掛けている。不安な様子が感じられる時には居室など静かに話せる場で話を聞き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の生活状況を把握し負担の軽減と不安が解消できるよう、又思いを表出できる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今困っていることや要望など確認し安心して生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞き安心して生活していただけるような声掛けを行っている。日常生活の中で個別で会話する時間を設けたり、グループの参加を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者が本人の様子を手紙で伝え2か月1回発行している'さくらんぼ新聞'にはホームでの様子や写真を載せて伝えている。家族に負担がない程度、外出や外泊などを支援している。また、大きなイベントには参加を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、小規模やデイを利用していた方は事業所内でのイベント時は行き来し馴染みの人との交流を図っている。元職場の同僚や親せきの方入所前にお世話していた方の面会その方との外出もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格や能力を把握した上で協力・共同生活できる様職員は見守り、時には間に入っている。孤立しそうな利用者に対しては環境を少し変え個別で対応しストレスにならないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ病状を伺いの電話をしたり、施設や病院の相談員の方を通して状況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、今の気持ちを聞いたり望みや不安など察知し家族面会時にも意見を聞いている。申し送りやカンファレンスを行い一貫した援助が出来る様に職員同士の話し合う機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーから入所時前の生活歴、家族構成、身体状況等の情報収集に努めている。入所後も新たな情報は職員で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意思を尊重して一日の過ごし方を決めて支援している。又、本人の現状での心身状態に応じて無理のないように、今出来ることや興味のあることの把握に努めて生活の中に取り入れられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に職員の意見を反映しプランを作成している。定期的な見直しをして家族への説明は来所持や帰省時など個々に応じて対応しており、現在の状況を説明し計画通り援助ができていいるかも確認しながら行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録に記入しており、特変や家族からの連絡、医療機関受診などの注意事項は申し送りノートを活用し職員間での情報交換を行っている。又、ケアの実践結果、気づいたことなど介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、家族の代わりに日用品を買いに行ったり、近くの理髪店まで同行したり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	正月は近くの神社へ参拝したりどんどやに参加している。その他地域の行事にも参加し楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前からのかかりつけを支援している。受診は基本的に家族が同行する。家族の都合で受診出来ない方は往診を依頼している。又、緊急な場合等も家族で連絡を取りながらホームで対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常や身体面での変化があるときは早めに看護師に報告し、異常の早期発見に努めている。感染性の疾患や救急時の処置の仕方などの勉強会を看護師が担当している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り職員も面会に行き、退院前は担当医・PT・相談員との会議に参加したり連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りの実例はないが契約の段階から重症化や終末期に向けた指針を策定し家族に説明している。看取りの勉強会により知識を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し救急車要請の訓練やスタッフの緊急連絡網も電話の近くに貼り出してある。AEDを設置しておりAEDの使い方や胸骨圧迫法など消防署の方に来て頂き勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、災害・夜間想定を組み込んだ消火避難訓練を年2回行っている。地域の方にも方々にも回覧し参加して貰っている。飲み物や食べ物も備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した介護、声かけ等心掛けている。又、排泄、入浴、個室でのプライバシー面では利用者が気持ちよく過ごして頂けるよう対応に努めている。守秘義務については入職時や研修を通して学んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や入浴、休む時間等、日常の中で選択をして頂けるよう声掛けを行い、無理強いすることなく一人一人が自由に過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、一人一人のペースや生活リズムを大切に話を聞きながらゆっくり過ごしていただいている。又、天気の良い日は敷地内の散歩をしたり交流希望時は小規模やデイを活用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望し好みに合った服装や季節・体質にあった服装に心掛けている。起床時は整髪・髭剃りなど身だしなみには注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを準備したり、簡単な盛り付けなどを入居者と一緒に行っている。本人の状況に合わせきざみ食・盛り付けやお碗の工夫をしている。季節感や行事に合わせた献立に利用者の意見、希望が反映するよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごと食事摂取量を記録し、水分の少ない方へはお茶だけでなく家族から本人の好まれる飲み物を持参してもらい飲水量を記録し脱水予防に努めている。家族が嗜好品を持参される所もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声掛け、誘導を行っている。出来る範囲まで自力で歯磨きをしていただき、最後には職員は口腔内の確認、仕上げを行っている。夜間は義歯を預かり、ポリドントに浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、本人の排泄パターンやサインを把握した上で、声かけや誘導を行っている。ズボンの上げ下げもその方に応じた対応で自立支援を行っている。夜間ポータブルを使用する方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便パターンを把握し、水分補給や腹部マッサージ、運動を促し、できるだけ自己の排便習慣がつくようにしている。おやつ時冷たい飲み物、乳製品(牛乳、ヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から浴室では個々に合わせた会話をしたり、季節ごとにゆずやしょうぶを入れて楽しんでいただいている。着がえの準備を一緒にしたり拒否があるときは無理強いせず更衣のみや翌日へ配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間の早い方は10時頃のお茶まで本人の部屋で休んでいただき、日中はレクレーションや体操で体を動かしている。夜間眠れないときは安心していただけるように、声かけ、傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ壁掛け袋に一人一人入れてあり内服確認している。個人の薬袋の中に説明書も入れており薬セットから服用まで数回チェックしている。薬の変更があった場合は服用方法・副作用など把握し体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にレクレーションを兼ねて皆で歌を歌っている。字を書くことが得意な方には習字の時間を設けたり、塗り絵が好きな方には季節感ある塗り絵などをしていただいている。又、出来る範囲で食事の用意や洗濯干しをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、気候、体調に合わせて敷地内散歩や季節ごとの外出(桜、コスモス)テラスでの外気浴を実施している。地域で行っているどんどやにも参加し地域の方との関係を保つよう努力している。好物を買いに行きたい方にはスタッフが交代で近くの店に同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人のお金は数千円、金庫内に保管している。ちょっとした日用品やお菓子をスタッフが同伴し買い物に行っている。面会時や担当者会議時、残金やレシート・出納品帳を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は電話を使用する事を支援している。家族が遠方におられる方は様子伺いの電話が来た際は本人と代わっている。遠方に住む家族から敬老の日、誕生日などお祝いの品が届くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔にし、日中はカーテンを開け外気の光を取り込み、快適に過ごすことができるように気をつけている。観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。また、外出時に撮った写真、ぬり絵、習字などを展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方、個々が毎日の生活の中で好む場所を理解した上、ホールでは利用者同士のコミュニケーションが図れるようにテーブルや椅子の配置を変えている。又、テレビの側にソファを置き、ゆっくり出来るスペースをとっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室において利用者と家族の要望に合わせて使い慣れた寝具を使ったりベッドの配置や高さを話し合っている。また御家族の写真や手作りカレンダーなど飾っている。面会時は居室でゆっくりとすごしてもらっている。毎週日曜日には日頃出来ない所を掃除するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており利用者の一人一人の身体状況を把握し散歩・歩行器・車椅子の方にとっても安心して行動できるスペースを設けている。安全に行動出来る様に室内に転倒の原因となるものを置かない様にしている。		